

来年も行きたい！楽しかった敬老旅行



▲旅の思い出、重要文化財の道後温泉本館の前で記念撮影

1泊2日の旅、秋の愛媛を満喫

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>



就労継続B型事業所おのころの家では、県の設備や店舗改修補助事業を申請、承認され、洲本市本町に「おのころ屋」を開業しました。
10月よりマドレーヌやクッキーなどを作り販売を開始、パンの製造も準備しています。
「体にやさしい」をキャッチフレーズに頑張ります。
みなさんの更なるご支援お願いします。



▲広大な動物園を車椅子で



▲初めての1泊旅行に笑顔の登さん

9月10・11日淡路聴力障害者協会恒例の敬老旅行があり、ふくろうの郷からも入居者10人、職員2人が参加しました。道後温泉、ビール工場見学、試飲、動物園、博物館等秋の愛媛を堪能しました。

一人ひとりに対応した担当表を作成

氏名	9月10日(土)				9月11日(日)				予備
	朝	昼	夜	送迎	朝	昼	夜	送迎	
登 静子	三谷	藤毛	内藤	和田	丸山				車椅子
藤本 世代子	梅田	武久	小嶋	三谷	梅田				車椅子
谷 妙子		三谷	梅田						
北原 幸子	武久	丸山	藤本	伊達	武久				車椅子
土野 文子		比							
栗本 中子	和田	藤本	和田		丸山				車椅子
藤田 静子		藤							
松崎 登子		藤毛							
藤本 紀子	比	野口	伊達	梅田	斎藤				対面通訳
北川 勉久美		野口							
志原 恵代子	丸山	梅田	三谷	斎藤	三谷				車椅子
野野 由上		藤本							車椅子
石山 彩子		藤本							車椅子
藤田 幸子	西山	伊達	藤	藤本	比				

淡聴協は今回の旅行に備え、1人1人に合わせた介助の担当者を決めるなど、前夜遅くまで準備。お陰で全員体調不良、けががなく、行程を楽しめました。淡聴協、サークル会員のみなさんは慣れない介助は大変で、疲れたけれど、「ありがとう」と言ってもらえ、疲労に勝る充実感を感じた。高齢の聴覚障害者と行動を共にし、色々配慮が必要との気づきを学べた。若いふくろうの職員も淡聴協のみなさんと交流でき、人生の先輩として色々学べて良かった・・・と感想を述べています。お互いにふれあい、学びあえた旅でした。(事務・辻)



▲ふくろうの元職員と再会も

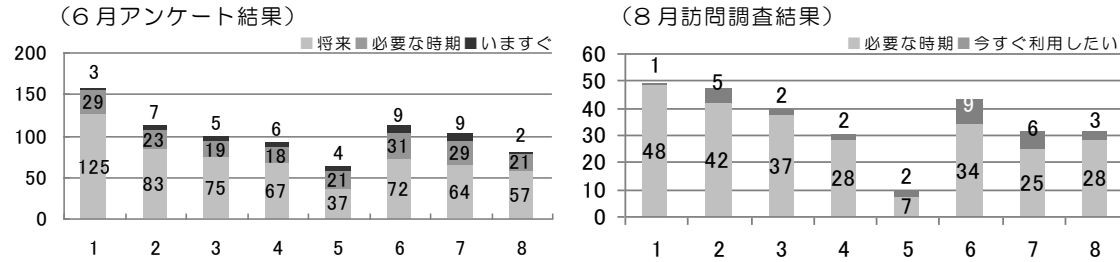


▲最高齢(95歳)の土居さん(左)があいさつ



▲触手話で藤本さんへ説明する野口さん

3. サービス希望状況(6月アンケート、8月訪問調査結果比較)



- 1.配食
- 2.病院や買い物時の送迎サービス
- 3.いろいろな代行サービス
- 4.高齢者の安否確認
- 5.保育所・学校への緊急送迎
- 6.草刈、家の掃除、修繕、墓の掃除など
- 7.田・畑の手入れ
- 8.家の電球替えなどの軽作業

おたがいさま中川原事業

～立命館大学生、連合町内会、民生委員協力による訪問調査結果報告～

5. 試行事業・今後ふれあいセンターに求めることは？

- ① 集会的な機能を作りいろいろな教室を開いてほしい
具体的意見として…
(料理教室、カラオケ、詩吟教室、おしゃべり会、体操教室など)
- ② 食事会を開催してほしい
- ③ ゆーゆーファイブなど温泉に行きたい
- ④ 観光ツアーを企画してほしい
- その他
- ⑤ 独身男性が多いので出会いの場を企画してほしい
- ⑥ ゴミだしも行ってほしい
- ⑦ 青空市のような市場をしてほしい



4. 各サービスの状況について

①配食サービスについて

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	125	利用したいと思わない	7
必要な時期	29	必要な時期	48
すぐ希望	3	今すぐ利用したい	1
なし	4		

③いろいろな代行サービス

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	75	利用したいと思わない	17
必要な時期	19	必要な時期	37
すぐ希望	5	今すぐ利用したい	2
なし	102		

⑤保育所・学校への緊急時送迎

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	37	利用したいと思わない	47
必要な時期	21	必要な時期	7
すぐ希望	4	今すぐ利用したい	2
なし	139		

⑦田・畑の手入れ

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	64	利用したいと思わない	25
必要な時期	29	必要な時期	25
すぐ希望	9	今すぐ利用したい	6
なし	99		

②病院や買い物時の送迎サービス

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	83	利用したいと思わない	9
必要な時期	23	必要な時期	42
すぐ希望	7	今すぐ利用したい	5
なし	88		

④高齢者の安否確認

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	67	利用したいと思わない	26
必要な時期	18	必要な時期	28
すぐ希望	6	今すぐ利用したい	2
なし	110		

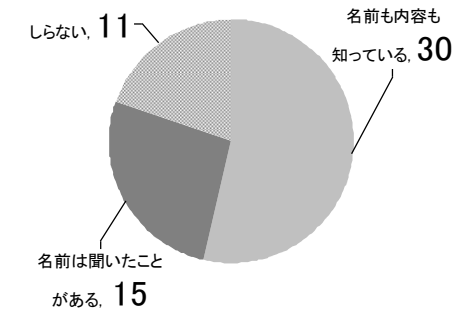
⑥草刈、家の掃除、修繕、墓の掃除など

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	72	利用したいと思わない	13
必要な時期	31	必要な時期	34
すぐ希望	6	今すぐ利用したい	9
なし	110		

⑧家の電球替えなどの軽作業

6月アンケート		8月訪問調査	
将来	57	利用したいと思わない	25
必要な時期	21	必要な時期	28
すぐ希望	2	今すぐ利用したい	3
なし	121		

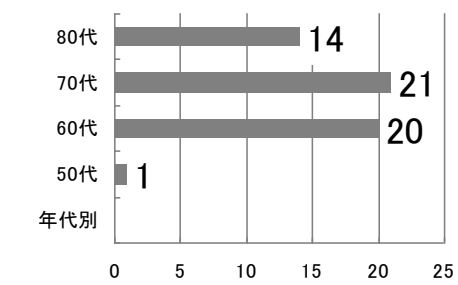
1. 「おたがいさま中川原」の取り組みを知っていますか？



先月号でお知らせしましたとおり、8月17～20日に実施した中川原連合町内会、民生委員、立命館大学生の協力訪問調査結果をご報告します。一部6月のアンケート調査結果との比較も掲載していますので、併せてご覧ください。

■訪問調査実施日…8月17～20日まで
■訪問対象地域…中川原町全域
■訪問調査件数…56件

2. 訪問調査対象者年代層



まとめ
6月アンケート回収数200に比べると8月訪問調査数56件というのはいささか少ないと感じられると思いますが、その分実際に顔を合わせる機会が増え、サービスの希望や利用の状況がより詳しく把握できたと感じています。

(室長・濱田)

「おたがいさま・いずも」の事業とは

生協島根の会員要求「何か役に立てることをしたい」から始まり、生協の支援を一部受けてはいますが、「新しい助け合い」(お互いに助け合う)事業としてスタートし9年目を迎えています。

「おたがいさま事業」は、千葉県生協がはじめた事業で、島根県では4か所(出雲、雲南、太田、松江)で実施されています。生協の会員を中心に応援者の登録がされ(出雲で300名余、定期的に活動されているのは2割程度)、コーディネーター7名が、利用者(登録制)からの困ったこと相談を受け、必要な支援をされています。利用者は、一時間800円～1000円の負担、応援者報酬は、1時間600円から800円の範囲で行われています。

応援の内容は、犬の散歩から高齢者の身の回りの支援まで、現状の福祉の制度では受けられない日々の困りごとを支援するもので、新しい形態の「お互いに助け合う事業」と言えます。

お話の中で、利用者からの相談にコーディネーターは100%以上のことを聞き、断らない対応を行っているとのことでした。

困ったこと相談を丁寧な受け止め、応援に結びつける

社会福祉制度が公的な制度から保険・利用契約制度に大きく変わり、地域

1. 応援者の組織づくりをどうするか。特に、困ったこと相談を丁寧な受け止め、応援に結びつけるコーディネーターの役割が重要であり、地域・家庭の事情等を

2. 地域で困ったことが互いに発信でき、互いに助け合う、それが安心につながる。

3. 利用料負担が伴う事業であり、内容によりリスクを伴う事業です。その点では、保険の適用や利用料についての検討も必要です。

1. 応援者の組織づくりをどうするか。特に、困ったこと相談を丁寧な受け止め、応援に結びつけるコーディネーターの役割が重要であり、地域・家庭の事情等を

2. 地域で困ったことが互いに発信でき、互いに助け合う、それが安心につながる。

3. 利用料負担が伴う事業であり、内容によりリスクを伴う事業です。その点では、保険の適用や利用料についての検討も必要です。

1. 応援者の組織づくりをどうするか。特に、困ったこと相談を丁寧な受け止め、応援に結びつけるコーディネーターの役割が重要であり、地域・家庭の事情等を

2. 地域で困ったことが互いに発信でき、互いに助け合う、それが安心につながる。

3. 利用料負担が伴う事業であり、内容によりリスクを伴う事業です。その点では、保険の適用や利用料についての検討も必要です。

出雲・おたがいさま事業の視察を終えて

9月10日(土)、島根県の「おたがいさま・いずも」事業の視察に、立命館大学石倉先生、地域から荒浜さん、平野さん、法人から大矢、濱田、中村、手話通訳(瀬田)が参加しました。

訪問先では、代表の福場様をはじめ、コープ島根の理事、おたがいさま事業に係るコーディネーターさん等多数に対応していただき、具体的な質問等が出され、予定時間を超過しての視察でした。

視察の内容は、

- ① おたがいさま事業の経過並びに事業内容
- ② 事業の状況、事例
- ③ コーディネーターの役割などでした。

今後検討すべき課題

1. 応援者の組織づくりをどうするか。特に、困ったこと相談を丁寧な受け止め、応援に結びつけるコーディネーターの役割が重要であり、地域・家庭の事情等を
2. 地域で困ったことが互いに発信でき、互いに助け合う、それが安心につながる。
3. 利用料負担が伴う事業であり、内容によりリスクを伴う事業です。その点では、保険の適用や利用料についての検討も必要です。

今回の視察で得たものを、洲本市中川原の地で、地域の特徴に見合った事業を具体化していきたいと考えます。それは何よりも、地域の自治会・民生委員等との共同した事業であり、サービスを必要とする全ての人々に必要なサービスを提供することは社会福祉法人の本来の目的、使命でもあることを念頭に置き進めていきます。

丁寧な対応をしていただいた、コープ島根の役員、おたがいさま事業のスタッフのみなさまの思いを大切に、中川原での事業を具体化していきたいと思えます。

(事務局・中村)



▲中川原におたがいさま事業を

入居者は変革と創造の主体 人生を語り五周年記念誌を普及



▲入居者の等身大パネルと共に講演する大矢施設長

ふくろうの郷への講演依頼が続いています。五月に五周年記念誌「淡路ふくろうの郷物語」の発行が大きく作用しているのでしょう。ろう高齢者の貧困・生活・社会問題の深刻化する実態にも関わらず、特養は全国で6ヶ所です。在宅支援サービスも皆無の府県が多い実態のなかで、ふくろうの郷の実践や入居者の人生を知り、それを通じて、現状を変えたいと望まれているのでしょうか。

島根県からの感想です。「自分の地域にも戦争中に途中で学校を辞めさせられたり

行けなくなった高齢ろう者がいます。少しでも笑顔が見えるように、一人ひとりに向合う活動を起こしたい。励みを得ました。」
「どうしてこんなに辛い体験を語ることができなのだろうと思いました。同時にこの事実から学んでいかなければと思いました。」

「多くの我慢している、我慢していると気づかないでいる人たちに、つながりと明るさと喜びが味わえるような、そんな場を創るために、具体的に話

- 6月 全国ろうあ者大会・佐賀(11日)
- 京都市聴覚障害者暮らしを考える集会(26日)
- 7月 福岡小倉聴覚特別支援学校修学旅行(8日 来所)
- 西脇市人権教育推進委員会(9日 来所)
- 兵庫通訳問題研究集会(18日)
- 8月 淡路9条の会戦争展(7日 洲本市 五色)
- 洲本市人権センター講座(18日)
- 9月 島根県ろうあ連盟(11日)
- 10月 兵庫県人権大会(1日)
- 北信越ろうあ者大会(2日 福井)
- 高野山真言宗教学講習会(5日 洲本市)
- 神奈川県聴覚障害者協会市民講演会(29日)

し合いたいと願います。感動し元気になる話でした。」
感想が示すもの、それは入居者とは、単に介護サービスを受け手ではなく、社会や制度を良くしていく共同の変革者・創造者だということです。
入居者の語りや記念誌「ふくろうの郷物語」が参加者の意識を変え行動を促していることが伺えます。
(施設長・大矢)

五周年記念誌感想

人間として大事に
高知県 竹島 春美

読んでいたら亡き父を思い出してしまいました。畠ゆりこさんの病院の話、アホ、アホと言う大鋸おんちゃん。父もバカ、バカとよく言っていましたから、義晴(父の名前)もそうやっただうなりました。ふくろうの郷の取り組みは素晴らしいです。インドのマザー・テレサの死を待つ家では、虫けらのように道端に放り出された人を救い、温かく世話をしてくれる、人間として大事にされた記憶を抱いて逝くことができると聞きました。ふくろうの郷はお年寄りのろう者を人間として尊重して、この世に天国を見ている気がします。

ろう者対応 できる病院を 高知県 竹島 春美

父が逝ってから半年あまりたった。80歳を超えてからは、入退院の繰り返しだった。耳が不自由、読み書きができない父の入院は、医療現場の現状、課題を考える機会を自分に与えてくれた。
胃全摘出手術後の絶対安静時、手術室まで同行した手話通訳者も家族も、病院が完全看護だからと、それぞれ家に帰っていきなかつた。手術後、誰もが痛み止めを欲しがる時点で、看護師は父に「痛み止めが要るか?」と伝えるすべがなかつた。父は痛み止めがあることを知らないまま、あまりの痛みには耐えかねたのだろう。体中に付いていた菅という管を全部自分で引っこ抜き、血まみれで廊下を歩いたとあとで聞かされた。

肺炎で入院した病院では、2日目の夜、医者から呼び出しがあった。「私どもの病院に来る耳の不自由な患者さんは筆談ができますが、あなたのお父さんはできませんね」と、医者に言われた。即、その日父を家に連れて帰った。

父と同じ年代の耳の不自由な仲間が入院した、施設に入所したと聞くことの多くなったこのごろ、医者や看護師、

ふくろう喫茶とカクテルバーのお知らせ

◆ ふくろう喫茶&バーでふくろうの郷の入所者さんと一緒に、楽しい時間を過ごしませんか。

バー開催日時: 11月10日(木)
13:30~16:30
カクテル各種 1杯 ¥300

喫茶開催日時: 11月20日(日)
13:30~15:00
コーヒー・紅茶・ココア・カルピスなど 1杯 ¥200より

職員との意思疎通は大丈夫だろうかと不安になってしまふ。ろう者に対応できる体制がある病院、施設があったらこんな苦しい気持ちにはならない。
医者、看護師らが手話を使えるか、あるいは、県に正式に登録されている手話通訳者が臨機応変に対応できる病院、施設がこの高知県内に一カ所でもあったらと強く願う。このほど改正された障害者基本法がこの願いに応えることを強く願う。
【高知新聞2011年8月24日「声ひろば」投稿】